

令和3年3月25日
駒の学び舎
世田谷区立駒沢中学校
校長 棚田 和明
学校関係者評価委員会事務局

令和3年度 学校自己評価報告書

I 今年度の重点目標の取組

考察等	○「互いを尊重し、認め合う心」、「自ら進んで学ぼうとする態度」、「豊かな知力と健やかな身体」、「社会貢献の意欲」「駒中 principle」などの項目は肯定的評価が多いが、今年度の特徴である感染症対策については、まだ課題があると感じている評価も目立つ。 ○全体的には肯定的な評価が多いが、具体的な取組にはまだまだ課題がある。
改善策	○それぞれの項目において教員一人一人が「自信をもって取り組めている」と思える具体的な実践を進めていく。特に、「駒中 principle」に関わる取組については様々な場面で生かせるよう教員の意識を上げていく。

II 地域とともに子供を育てる教育

考察等	○便りやホームページでの情報発信、保護者対応や保護者との連携など、保護者との関わりについては例年のように肯定的な評価が多い。教員も意識して取り組んでいる。P T Aの活動に対しては今年度ほとんど活動がなかったため、例年以上に不十分さを感じられている。
改善策	○今年度、学校支援地域本部を立ち上げた。主に各種検定、校内の緑化活動に取組んだ。まだまだ過渡期であるが、今後一層活性化させていきたい。

III 未来を担う子どもを育てる教育

1 教育課程・教育目標

考察等	○教育課程に関することや学籍事務についての上位の肯定的評価はあまり高くない。教員の教育課程自体に対する日頃の理解が低いかと思われる。
改善策	○計画の組織的な進行については、教務主任を中心に業務の進行管理を丁寧に行い、分掌主任との連携を一層図る。教育課程の意識・理解を高めるため、管理職や教務部から適切な情報を提供していく。

2 学習指導

考察等	○学習内容の基礎基本の定着への取組、授業計画の取組、言語活動、評価・評定など授業改善全般に関する取組については肯定的評価が多い。 ○ I C T 機器をはじめ、教材教具に関する整備については例年のとおり課題と感じている。 ○図書館活用については、その効果を理解しつつも実践に関して課題を感じている。
改善策	○教科日本語については、改めて研修等を通してそのねらいや指導法について確認し、効果的に取組が実践できるようにする。 ○昨年度とほぼ同じような傾向である I C T 機器の活用、図書室活用、教科日本語の一層の推進については、各担当を中心に具体的な取組を進める。

3 道徳・特別活動・総合的な学習の授業

考察等	○道徳・特別活動・総合的な学習の授業等の指導における計画的な取組については一定の評価が得られている。より、ねらいを明確にした具体的な指導を進めすることが求められる。 ○道徳的心情や判断力、実践力については課題としている教員もいる。日々の学校生活の様子から判断しているものと思われる。
改善策	○道徳の時間の教科化を踏まえ、その取組については確実に進められている。指導が必ずしもすぐ日に日々の実践力に結び付くものではないが、特別活動における実践的な取組と合わせて一層の充実を図る。

4 生活指導

考察等	○昨年度同様、「保護者対応」や「スクールカウンセラーの活用」については高い評価である。昨年以上に生徒落ち着いており、実態に応じた評価となっている。 ○組織的な対応については不十分さを感じる。
改善策	○学校生活のきまりについては、大幅に見直しをした。そのことについて教員の理解と実践が一致していないことが評価にも表れている。「生活指導スタンダード」について、具体的な理解を一層進められ取組を行う。

5 学校行事

考察等	○今年度は、感染症対策のため多くの行事が中止、縮小された。そのことが評価にも表れていると思われる。実施した行事に関しては、生徒への取り組ませ方など肯定的な評価は高いが、今後感染対策を踏まえた学校行事そのものの工夫・改善については課題がみられる。
改善策	○学校行事については、常に精選と改善を図るとともに組織的な取組が求められる。新しい意見、考えを積極的に取り組んでいく体制を作っていく。

5 健康体力・特色ある教育・世田谷9年教育

考察等	○コロナ禍であったが、体力向上や健康教育に関する取組に対しては肯定的評価が高い。体育科や養護教諭、運動部の顧問を中心に感染対策を施しながら生徒たちの健康や体力の維持向上にかかる取組を積極的に取り組んでいる。 ○小中連携については、今年度ほぼすべての取組が見送られたことが評価に表れている。
改善策	○今年度については、感染対策を踏まえた上で、体力向上・小中連などに関する取組を進めていく。

6 キャリア教育・進路指導

考察等	○進路指導については、学年ごとにねらいに応じた指導を進めている。今年度よりキャリアサポートを作成し活用している。定着についてはまだ課題がある。
改善策	○進学指導にとどまらず、幅広く生き方指導としてのキャリア教育を進めていく。

7 特別支援教育・教育相談

考察等	○特別支援教育コーディネーターと教育相談主任を中心にその取組を進めている。本校は、特別支援教室の拠点校であり、聞こえの通級も併設しているが、特別支援教育自体の理解はまだまだ十分と言えない。カウンセラー活用も含め一層の推進が求められる。
改善策	○特別支援教室（すまいるルーム）と通常級の教員同士の連携や教育相談部会の一層の充実を図り、「不登校対策」「カウンセリング」などの特別支援教育と教育相談の取組を一層進める。

8 NIE・オリパラ教育・ESD

考察等	○NIE（新聞による教育）の取組も3年目となり、「読む」ことから「書く」ことに取り組み、教員の意識も高まっている、一層様々な教育活動に生かしていくことが課題である。 ○東京オリンピック・パラリンピックの延期により、取り組みがやや停滞している。東京オリンピック・パラリンピックの実施の有無に関わらず、継続的に進めていくことが求められる。 ○ユネスコスクールの取組についても、意味や趣旨についての理解が不十分な教員がまだまだいるがESDの取組が各学年で進められており、一定の効果が見られている。
改善策	○NIEについては、一層の定着を図れるよう取組を進める。 ○ユネスコスクールの取組については、教員の中での理解を一層進めるとともに、日々の教育活動のひとつひとつと関連付けることができることを確認していく。

9 部活動

考察等	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動についても感染症対策でその活動が制限されたが、教員は意欲的に熱心に指導を行っている。 ○組織的な運営について否定的意見があるのは、部活動の教員の負担に偏りがみられることがあるが、担当している教員自体は意欲ももって指導にあたっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○休養日の設定を含めガイドラインについて再度確認をし、生徒と教員の負担軽減を図るとともに、一層の指導の充実を図る。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（学校運営・学校経営・学校評価）

考察等	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の学校運営・学校経営の参画意識の肯定的評価は高いが、学校としての組織的な取組に対しては否定的評価がみられる。 ○I C Tについても、苦手意識をもっている教員も含め意欲的に取り組んでいる。 ○学校評価については例年とおり肯定的評価が高い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的運営については、組織的運営を見直すとともに、担当主任等一部の教員の問題としてとらえるのではなく、教員一人一人の学校運営・経営意識の向上についても改善を図る。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（教職員・研修）

考察等	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の人間関係に関しては昨年度以上に否定評価が増えている。また、働き方改革についてもその取組や個人としての意識改革について課題意識がみられる。 ○服務規律に対する自覚に少数であるが否定的評価がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革については、組織として具体的な取組が求められる。業務改善を一層進める。より実践的な研修を行う。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（保健管理・安全管理）

考察等	<ul style="list-style-type: none"> ○アレルギー、熱中症、感染症などの対応・研修をはじめ、保健管理については養護教諭を中心に計画的に進めており、肯定的評価も多い。また、安全管理についても、避難訓練など防災に関する取組における評価も高い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に関する取組は、より実践的な練習が大切である。肯定的評価は多いが、実践的な部分では不安を感じている面もあるので、より実践的な取組を進めていく。また、新型コロナウイルス対策についても一層の充実を図る。

V 教育環境の整備（施設設備、出納・経理、文書・情報管理）

考察等	<ul style="list-style-type: none"> ○教育環境については決して整っているのではないが、今ある環境の中で、環境の維持・改善、有効活用を進めている。より一層、整備についての意識を高めていく必要がある。 ○昨年度同様、出納・経理などの予算管理や文書管理については肯定的評価が多い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○施設にしても文書管理にしても I C T機器にかかる課題が多い。世田谷区はシステム管理されているので、システムの能力を最大限に生かす取組を一層進める。 ○出納・経理については、事務職員を中心に一層組織的に進める。